

# RayoNAGOYA

## SDGsの取組

取組・活動内容	RayoNAGOYAでは『笑顔あふれる地域づくりに貢献する』ことを理念として活動しています。 クラブとして選手たちがサッカーをうまくなることはもちろんですが、スポーツは国籍、年齢・性別・障害を越えて「非日常を楽しむもの」ということを念頭に置き、クラブに所属していない方たちにも運動をしていただく場を提供し、地域の皆様に健全な社会生活を送っていただくよう努めています。		
	目指すゴール	取組・活動内容とゴールとの関係	目標
	経済 1. 3. 4. 5	女性選手や女性指導者を積極的に採用し、「JFAなでしこひろば」などの女性が活躍できる場を提供していきたい。	クラブ内の女性在籍（コーチ含む） 10%（2020年度）→20%（2025年度） JFAなでしこひろば開催 0回（2021年度）→開催12回（2025年度） JFAなでしこひろば参加者 200名（2025年度）
	社会 3. 4. 5. 10. 11. 16	健全なスポーツ環境を提供し、すべての子どもたちに平等で公平な指導環境を提供。 『補欠なし』『引退なし』を前提に、多様性を越えた活動している。クラブに所属していない方にも、無料で運動する機会を提供するプログラムを実施。 ひとり親世帯の支援。  『PauleleCUP』という誰でも参加できる1日のみの大会を実施。会場の設営や、監督・審判・マネージャなどを中学生に、多くの小学生に参加してもらい、性別や学年を越えた多くの交流を生み出す。	「無料で参加できるプログラム」開催年6回（2021年度）→年12回（2025年度）  「ひとり親支援制度」 在籍6%（2021年）→15%（2025年）  「PauleleCUP」開催年2回（2021年度）→年3回（2025年※長期休暇の活用）
	環境 11. 12. 14. 15	『サッカーをしないキャンプ』として、『過剰に食材は用意しない』『割りばしや紙皿等の使用はしない』『こまめに水を止めながら調理や洗い物をする』など、決して便利ではない自然環境から学ぶキャンプを実施。 また、プロギングもチームの活動に取り入れ、子どもたちだけでなく保護者の方やその友人など、多くの方を巻き込み環境保全に取り組む。	キャンプ年2回開催40名（2021年度）→年4回開催100名（2025年）